

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立久保泉小学校
1 前年度 評価結果の概要	・令和4年度の共通評価項目及び独自評価項目については、1項目を除いて、おおむね良好の結果を得ることができた。新型コロナウイルス感染症予防のため、学校の取組の制限や授業参観の自粛などで保護者や地域の方々へ学校の様子を十分伝えることができなかったが、工夫して行事を行い、保護者や地域の方々へ学習の様子を見ていただく機会を増やすことができた。しかし、まだまだ学校での取組や児童の様子が家庭や地域に伝わっていない部分も多い。また、職員の取組が成果として表れていなかったり、意識の向上は見られたが行動が伴っていなかったりする項目もあるため、「学力向上」「心の教育」には、さらに、家庭や地域と連携して取組を進め、課題改善が必要である。また、課題となっている業務改善についても、業務の精選や平準化を行うなど新たに具体的な方策を探る必要がある。

2 学校教育目標	夢に向かって 笑顔で学び合う 子どもの育成 かしこい子（基礎学力、問題解決力、論理的思考力） やさしい子（思いやり、規範意識、郷土愛） たくましい子（ねばり強さ、礼儀・あいさつ、心身の健康）
----------	--

3 本年度の重点目標	1 [雄飛学園「めざす15歳の姿」]を目指して、雄飛学園教育を推進する。 2 学力向上を図る。 3 命と人権教育を推進する。 4 「雄飛学園メソッド」に基づいた生活習慣や規律ある行動の定着をめざす。 5 子どもへのまなざし運動と市民性を育む地域と連携した教育を推進する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○学習のきまりを身に付ける教育活動	○「学びかたについて」の学習に関する4項目を守って学習することができたと回答した児童85%以上	○「学びかたについて」の指導を粘り強く行い、年度初めに職員間で共通理解をしておく。 ○「まなざし週間」を設定し、家庭での学習時間の目安を示すことで、学習習慣の定着を図る。	B	○年度初めの職員会議で、児童の学習規律について共通理解をし、学期の途中も定期的に担任同士で、児童の学習規律や学力向上等の情報交換を行った。 ○6月に家庭学習習慣及び規範意識の定着を図る「まなざしカード」を実施した。集計した結果を全職員に共有し、改善点を踏まえた上で、担任より通信や懇談を利用して各家庭に周知した。	A	○「学びかたについて」の学習に関する4項目を守って学習することができたと回答した児童9割を超えることができた。 ○9月と1月にまなざしカードに取り組んだ。集計した結果を全職員に共有し、改善点を踏まえた上で、担任より通信や懇談を利用して各家庭に周知した。1月の学習時間は9月集計よりも全学年で目標時間に近づいていた。	A	・学習時間の定着や習慣づけはとても良いと思う。このことが、学力向上へとつながることを期待する。 ・授業の中で子供たち同士が認め合い、尊重し合うことを期待する。（教師は授業で勝負）教師の創意工夫と子供たちが学び合う姿をもっと見てみたい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○友達を思いやり、笑顔で「ぼかぼか言葉」を使っていると回答した児童が85%以上 ○いろいろな友達に同じような気持ちで話したり関わったりしていると回答した児童が85%以上	○人権・同和教育の視点に立った授業を実施する。 ○全校や学年グループ単位で参加体験型の人権教室・集会を年間7回実施する。 ○朝のエンカウンタータイムを充実させる。	B	○「友達への気持ちを考えて、思いやりのある「ぼかぼか言葉」を使っていると回答した児童」は91%、「悲しい思いをしている友達や困っている友達にやさしくしています」と回答した児童は94%。 ○人権教室を計画的に実施し、友達への理解を促すことができたが、友達を傷つけてしまう事案もまだ見受けられる。 ○エンカウンターを楽しむにしている児童が多い。 ○下級生のお世話をすることで、自己肯定感や自己有用感が高くなった。(6年生)	B	○「児童が思いやりのある仲間づくりや言葉遣いができるような指導に努めています」と回答した職員は100%。「学校は、道徳や人権教室などを通して、思いやりのある心や命の大切さなど、心を育むことができていると思いますか」と回答した保護者は91%。 ○全学級、授業参観にふれあい道徳を実施した。 ○人権教室・集会、エンカウンターを計画的に実施し、異学年での活動も実施できたが全学年で自己肯定感が十分に高まっているとは言えない。	B	・子供たちから問題行動についての話を聞くことがある。その都度学校は対応されていると思うが、事業の全容をていねいに把握して対応してほしい。
	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○いじめに係る職員研修を実施し、早期発見、早期対応のための体制を共通理解する。 ○なかよしアンケートやいじめアンケートの結果を全職員で共有し、児童の実態を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ○いじめを覚知したら、いじめ防止対策委員会を開き、情報を共有し対応する。 ○様々な機会に教員が意図的に「出番・役割・称賛・承認」を与え児童の自己肯定感を高める。 ○キャリアパスポート等を活用し、毎学期のめあてを設定する。そして、学期の間・終盤にふりかえりを設定し、児童自身の成長を確かめさせる。	B	○7月26日にいじめに係る職員研修を実施した。いじめには、組織で対応することや早期発見・対応のための体制作りについて確認した。 ○なかよしアンケートを5・6月に、いじめアンケートを7月に実施した。毎月の第4水曜日に児童支援会議において、アンケート結果を全職員で共有している。 ○いじめの覚知をしたら、すぐにいじめ防止対策委員会を開くことができるような体制を整えている。	A	○いじめに向けた早期発見・早期対応に向けた取組ができたという教職員は100%だった。 ○児童に対してなかよしアンケートを9・10・11・1月に実施した。保護者に対して12月にいじめアンケートを実施した。毎月の第4水曜日に児童支援会議において、アンケート結果を全職員で共有している。 ○年に2回、朝の時間に担任と子供が1対1で面談する時間をもって、児童理解に努めている。	A	・いじめは、子供一人ひとりの感じ方・考え方が違い難しい課題だと思うので、アンケートばかりに頼らず、担任や周囲の気づきが大事だと思っている。早期発見早期解決の取組の成果が高いので、これまで以上に子供をよく見ていくことを心がけるようにしてほしい。
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」	○基本的な生活習慣である「早ね早起き」「朝ごはん」「身だしなみ」ができていと回答した児童85%以上	○基本的な生活習慣をチェックする「まなざし週間」を設定し、家庭でも児童の生活習慣を振り返る機会を設け、改善につなげる。	B	○「まなざしカード」の集計で、「早ね早起き」「朝ごはん」「身だしなみ」ができていと回答した児童は87%であった。 ○特に高学年の「就寝時間」や「テレビ・ゲームの時間が守れているか」に改善点が見られた。学校と家庭の連携を密にしながら、今後、児童がより良い生活を送れるように対策を講じていく。	B	○基本的な生活習慣である「早ね早起き」「朝ごはん」「身だしなみ」ができていと回答した児童90%であった。少しずつ意識できる児童が増えた。 ○朝ごはんや身だしなみはできているが、就寝時間が高学年になるにつれて遅くなる傾向がり十分とは言えない。引き続き保護者や児童に呼びかけをしていく。	B	・家庭との連携が欠かせない。そのためには、日々の情報提供がもっと必要だと感じる。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○定時退勤日には、出勤時に退勤予定時刻を書き、効率よく業務を進める意識を高める。	○年間の業務を見通し、繁忙期の業務を分散させ時間外在校等時間を短縮する。 ○定時退勤日には、出勤時に退勤予定時刻を書き、効率よく業務を進める意識を高める。	B	○時間外在校等時間の短縮を意識できた職員が55%であった。 ○定時退勤日には、ほとんどの職員が退勤することができた。	A	○時間外在校等時間の短縮を意識できた職員が88%であった。 ○定時退勤日には、ほとんどの職員が退勤することができた。	A	・働き方改革の意識が徐々に高まっていることが伺える。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の更なる向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教員85%以上	○児童支援会議を毎月実施し、支援が必要な児童の共通理解を図る。 ○特別支援教育の職員研修を計画的に実施し、職員一人一人の専門的理解を深める。	B	○毎月の児童支援会議の中で、支援が必要な児童の共通理解を図ることはできている。 ○職員研修以外でも、教育センターや教育委員会、教育事務所の研修に自主的に参加し、職員一人一人の専門的理解を深めることができた。	A	○特別支援に関する専門性が向上したと回答した教員は100% ○研修会8回実施。そのうち1回は、教育委員会から指導主事を招いて、より専門的な研修を実施。 ○ケース会議7回(職員のみ4回、保護者同席1回、巡回相談1回、巡回相談保護者同席1回)実施。	A	今後も研修を重ねてほしい。
○地域連携	○まなざし運動と市民性を育む教育の充実	○地域の「人、もの、こと」に対する関心が高まり、地域を再発見したと回答する児童が85%以上 ○地域の「人、もの、こと」に関わる活動を進めることができたと回答する教職員が85%以上	○総合的な学習の時間のねらいを職員全体で共有し、ふるさとに根ざした学習活動を展開する。 ○学習や行事に地域の人が積極的に参画できる計画を立てる。運営協議会の委員と話し合いの場をもち、情報を共有しながら内容を吟味し、実践する。	B	○地域の人、もの、ことへの関心が高まった、または、地域のことを再発見したと回答する児童の割合は92%。地域の人、もの、ことに関わる活動を進めることができたと回答する教職員の割合は、67%。 ○地域と連携した学習計画を地域教育コーディネーターや運営協議会の委員の方々に提案し、すすんで協力してもらいながら学習を進めることができた。	A	○地域の人、もの、ことへの関心が高まった、または、地域のことを再発見したと回答する児童の割合は89%。地域の人、もの、ことに関わる活動を進めることができたと回答する教職員の割合は、89%。 ○地域と連携した学習計画を地域教育コーディネーターや運営協議会の委員の方々に提案し、すすんで協力してもらいながら学習を進めることができた。	B	・子供は地域の活性化のための重要な人材です。子供が主役となるよう地域の一員として今後も見守っていきたいと思う。 ・小学校と地域の距離感は近いと思う。このまま連携が続くことを望むので、地域代表、PTA役員との相談・連携を今以上に高める必要を感じる。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・本年度の共通評価項目及び独自評価項目については、おおむね達成の結果を得ることができた。 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、学校の取組を保護者や地域の方々へ学校や学級からのたよりでお知らせして日々の児童の学習や生活の様子を見ていただく機会を増やすことができた。しかし、保護者アンケートなどには、学校の取組や児童の様子が「よくわからない」といった回答があり課題となっている。 ・職員の取組が徐々に成果として表れ、意識の向上とともに成果が表れてきている。「学力向上」「心の教育」「望ましい生活習慣形成」には、さらに、家庭や地域と連携して取組を進め改善を図っていきたい。
----------------	---